

## 地歴公民科学習指導案

科 目	授業学級	授業場所	使用教科書	授業者
日本史B	2年文系 (1組17人, 2組13人, 3組9人)	2年1組	詳説日本史(山川出版社)	二宮勇貴

### 1 単元名

第4章 中世社会の成立

### 2 単元の目標

- (1) 歴史資料を活用し、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係の考察などの活動を通し、歴史の展開における諸事象の意味や意義を理解させる。
- (2) 武士の土地支配と公武関係、東アジア諸国との関係、仏教の新たな動向などに着目し、中世国家の形成過程や社会の仕組みと文化的特色について考察させる。
- (3) 日本の諸地域の動向を、東アジア世界との関係、産業経済の発展、庶民の台頭と下克上、武家・公家文化の融合及び庶民文化の萌芽に着目して、中世社会の多様な展開と文化的特色について考察させる。

### 3 単元（題材）の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・中世国家と社会や文化の特色について意欲的に追究している。	・中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景から課題を見だし、 <u>東アジア世界との関係と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</u>	・中世国家と社会の特色に関する情報を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景についての基本的な事柄を、 <u>東アジア世界と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</u>

### 4 単元（題材）の指導計画（全12時間）

- 第1節 院政と平氏の台頭
- 第2節 鎌倉幕府の成立
- 第3節 武士の社会
- 第4節 蒙古襲来と幕府の衰退（全2時間）
  - 社会の変動と幕府の衰亡
  - 蒙古襲来と蒙古襲来後の政治（本時）
- 第5節 鎌倉文化

## 5 教材（単元・題材）観

中世の日本は、中国（宋、元、明）を中心とする東アジア世界との密接な関係の中で、武家による政治が展開していく時代である。本教材は、中学校までに学んだ基礎的・基本的な知識を踏まえ、特に、世界史、地理、政治・経済といった科目を横断して多面的・多角的に考察することが可能な単元である。

## 6 生徒観

本クラスは日本史に興味・関心をもっている生徒が多く、授業態度も良好である。提出物にも真面目に取り組み、考査も事前に準備をして取り組んでいる。しかし、試験結果を詳細に分析してみると、単純な用語や人名を問う問題の正答率は比較的高いものの、資料を基にして考えたり、自分の言葉でまとめたりするいわゆる記述式の問題については正答率が低く、無回答の答案も多く見られる。

## 7 指導観

上記の分析結果を踏まえ、通常に授業においては講義形式だけでなく、授業内容を基に生徒に考察させたり、判断させたりし、その結果を自分の言葉で説明したり論述するなどの言語活動を意図的・計画的に取り入れた指導が必要であると考えた。

## 8 本時の実際

### （1）本時の目標

蒙古襲来が何故起きたのか、また日本では幕府と御家人がそれぞれどのように変化していったか考察し表現する。

### （2）本時の評価規準

蒙古襲来を、その世界史的な意義及び、幕府と御家人の関係の変化の一つの契機として、複数の視野から考察し、それを表現できているか。【思考・判断・表現】

(3) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点 及び評価の観点	備考
導入 5分	・ 鹿児島と元寇	・ 史料(大隅国在庁石築地役配符) の内容を考察する。 ・ 史料が元寇に関連したものであることに気付く。	・ 史料中から鹿児島県の地名に注目させ、生徒の興味・関心を引き出す。 ・ 蒙古襲来についての疑問を三方向から掲示し各展開に繋げる。	『鹿児島県史料』
展開 I 10分	・ 蒙古襲来の動機 ①東アジア経済圏と日本  ②モンゴルの侵略	・ <u>世界地図を見ながら当時の東アジアの情勢を確認する。</u>  ・ 『世界の記述』から情報を読み取る。  ・ ①の内容を踏まえ、何故蒙古襲来が起きたか考察する。 ・ 蒙古襲来についての日本側の対応を調べる。	・ <u>南宋との交易関係を元に、当時の日本が東アジア経済圏の中の一部であったことを理解させる。</u> ・ 『世界の記述(東方見聞録)』をもとに <u>当時の海外の日本観や南宋の経済的繁栄を理解する。</u> ・ <u>元による日本の征服という単純な図式ではなく、東アジアの国際情勢の中で起こった事件であることに気づかせる。</u>	世界地図  授業プリント
展開 II 7分	・ 蒙古襲来の実際	・ 資料から蒙古と日本側の戦闘について読み取る。	・ 『蒙古襲来絵詞』を用いて御家人たちの抵抗により日本側がモンゴル軍に多大な被害を与えたことに気付かせる。	授業プリント
展開 III 25分	・ 蒙古襲来後の御家人 ①貨幣経済の発展 ②所領の細分化  ③蒙古襲来への恩賞	・ 当時の御家人を取り巻く状況を蒙古襲来に関連させて理解する。  ・ 蒙古襲来が御家人にどのような影響を与えたか授業プリントにまとめる。	・ 社会経済の発展や分割相続により御家人の貧窮が始まりつつあることを確認させる。 ・ 蒙古襲来を承久の乱と比較させ、奉公の対価である御恩がない理由について考えさせる。 ・ 机間巡視をしながら個別に指導を行う。 ・ 竹崎季長の例を取り上げ、当時の御家人が恩賞を強く求めたことを確認する。	授業プリント
終末 3分	・ 幕府の衰退	・ 本時の内容をまとめ、来時以降の内容を大まかに概観する。	・ 御家人の貧窮を食い止めるべく、幕府は徳政令を出すのが滅亡することを説明する。	

